

## 第3章 流域の災害

### 第1節 災害年表

#### 1. 概要

高知県下における災害の歴史をみると、風水害によるものが圧倒的多数を占めている。物部川流域においても、過去の記録によると要因別では地震・台風・旱害に大別され、その中で台風はこの地方が常襲地帯となっているため災害発生の頻度・規模ともに大きく、被害は洪水・暴風雨・高潮と態様も様々である。

近世に入ってから主な災害のうち、宝永の大地震・宝暦の洪水・文化12年のいわゆる亥の大変・安政の大地震について南国市史からできるだけ原文に忠実に引用する。

#### ④ 宝永4年(1707年)の暴風雨と地震

8月19日土佐国内に大暴風雨があって被害が多かった。10月4日には大地震と津波が入って損害が多かった。この時損害は死人が1,844人、米の流出が22,120石、損田が45,170余石等記されている。この年立田村の被害は非常に大きくて、上陸内の如きは竹が端堤防がきれて東西の田畑は残らず荒地となり、長く免租になった。また、この年の地震は激震で、その後半年ほど微震が続いたと云うことである。津波は当村境まで来た。(「立田村誌」)

宝永4年10月4日の大地震は、その日の午の刻よりゆれ始めて、これに伴う津波が起り、前浜の東、古湊の切土を押切って大潮が高く北上して伊都多神社の前から東の窪にまで来た。人々は、恐れおののいて大藪の中に畳や蓑を敷いて日夜を過ごし、あるいは遠く北へ走って立田村・岩村の辺まで逃げた者もあるという。いずれもカア・カアと連呼して走ったと伝えられているが、川の水を見よの意か、それとも無意義な言を無意識に言ったものか明かでない。(「田村誌」)

#### ⑤ 宝暦8年(1758年)の洪水

宝暦8年7月26日の風雨洪水は、風水害が一般に甚大で田村村も相当の被害があった。取りわけ、当村ならびに田村井筋の農民一同は非常に迷惑をこうむった。これはこの時の洪水のために水取関居が大破大抜けとなり、物部川の水面が井流底より6尺余も下り、幾ら日を重ねても二重三重に堰を打立てても通水不能のため、関係7カ村の者が協議して上田村庄屋の笠井九郎左衛門からお願いをし、御普請方や御郡先遣所および御奉行までが立会して実地調査のうえ、ついに数町上流へ井堰居を上げて、井筋も古井床をさらに開削してようやく引水かんがいすることを得た(「田村誌」)

㊦ 文化12年(1815年)の洪水(亥の大変)

文化12年にいわゆる亥の大変があった。宝永4年からちょうど109年目の7月6日から8日まで日夜続いた大風雨で未曾有の大洪水であった。物部川の兩岸の堤塘は僅かに3分位残して他は皆決潰したため、下流諸村は多く大損害を被り、田畑家屋を流し、流死する者もおびただしく、諸道具飯米等をも皆流した者も多く、浸水家屋は床上2〜3尺も泥土が堆積していたと云う程で、田村村も上島より王子は被害が多であった。そのうえ、田村堰は大破し、ならびに井口から下、立田の宮の東、楠の本井口までは大埋まりで、王子川も清元まで大埋りとなり、1坪のしのけ夫7〜8人でも困難な程の埋方で、掘上げた土砂の置場さえ無かった。

しかるに前述の如く、上田村にも前浜にも半潰の家多く、飯米まで流した者さえ少ない。下島村に至って全村洪水に浸されて1人も出夫ができない状態で、井筋の掘上げも堰の修築も全く不能で、その間に井下の村々は用水一流もなく、田は皆荒畑と化する程度に立至り、ついに普請方へ嘆願して漸く復旧工事を終えたが、この時の被害は相当多であったということである。(「田村誌」)

㊧ 安政元年(1854年)の大地震

安政元年の11月4日5日の両日に大地震があった。初め4日の辰の刻に強震があって津波が起こり第2震があった。第2震の時の津波が一層高くて、立田近くまで寄せて来たという。そこで立田村の人々は山田方面へ向かって逃げ走ったり、また竹藪に畳・むしろなどを敷いて、しきりにカア・カアといって川の水を見て居たと言う。思うに津波が川を逆流してくるのを見たものであろう。

5日の申刻にまた大揺れがあった。次いで微震が続出して絶えなかった。その夕方雨を催したからもはや強震は無かろうと人々が安心して避難所から帰宅して寝た。するとその後も時々大音響を發し、強震微震が起こって翌年正月まで止まなかったということである。この時の死者は372人、負傷者180人、焼失家屋2,500軒、流家が3,200余、潰家が3,000余その他の被害が多かった。当村の被害は定かでないが、これまた相当多かつた模様である。(「立田村誌」)

明治に入ってから、明治19年9月の台風によって物部川の堤防が欠壊し、後に有名な「物部川堤防事件」の原因となった災害を初めとし、明治25年、同32年、大正4年、同7年、同9年と梅雨前線あるいは台風による水害が頻発している。

昭和に入って、昭和9年の室戸台風、同20年の枕崎台風のように西日本・四国・九州の広い地域に被害をもたらした災害では、どのようなわけか物部川流域では被災していない。

その後も数年に一度程度の割合いで、大雨による災害が発生しているが、近年では永瀬ダムが昭和32年に完成し物部川の治水安全度に大きく寄与したこともあって、流域の洪水被害は軽減されている。

2. 災害年表

イ 藩政時代およびそれ以前

西暦	年月日	原因	被害状況
778	宝龜8 7月 一	暴風雨	暴風雨あり。土佐4郡の百姓産米損傷す。人畜流亡屋舎破壊す。
1150	久安6 一	風 雨	風水害あり
1265	文永2 7月17日	〃	14日〜17日風雨激しく止む時なし、無上の荒風にて大木根こげ中折れ屋傷む。洪水にて山岳崩れる。
1604	慶長9 7月13日	風 雨	大風雨洪水あり、立田村にも被害
1626	寛永3 8月 〃	大旱魃と洪水	大旱魃の後洪水で大きな被害を生じた
1658	万治元 8月19日	暴風雨	洪水のため流域に被害
1660	〃 3 9月20日	〃	〃
1661	寛文元 7月5日	洪 水	大洪水のため流域に被害
1662	〃 2 6月 一	〃	〃
1666	〃 6 7月 一	〃	土佐一帯の被害は死者151人、損米81,300余石
1683	天和3 一	〃	物部川大洪水、小田島、岩積、山田島流される。
1687	貞享4 一	暴風雨	大暴風雨
1701	元禄14 8月16	洪 水	洪水前大旱魃、大洪水で立田村も被害多し
1702	〃 15 8月30日	暴風雨	同年7月28日洪水、1ヵ月後に再被災
1704	宝永元 7月 一	洪 水	洪水のため流域に被害
1706	〃 3 6月 一	〃	〃
1707	〃 4 8月19日	暴風雨	立田村の被害が非常に大きく、上陸内では竹が端堤防が欠壊し、東西の田畑は残らず荒地となる。
1707	宝永4 10月4日	地震・津波	津波が発生し、古湊の切戸を押切って大潮が北上した。8月洪水と合わせた被害は、死者1,844人、米の流失22,120石、損田45,170石
1732	享保17 一	飢 饉	病虫害による大飢饉
1746	延享3 8月23日	暴風雨	洪水のため流域に被害
1751	宝暦元 6月18日	洪 水	物部川前代未聞の大出水
1757	〃 7 9月5日	〃	損米73,500余石
1758	〃 8 7月26日	〃	流域の損害甚大、また田村堰が流失し物部川の水面が井流底より6尺も下り数町上流から取水した。
1782	天明2 7月22日	洪 水	7月18日、22日と2波の洪水で被災
1792	寛政4 7月26日	〃	土佐国内の家屋損壊15,466戸、損米30,126石、死者11人

西暦	年月日	原因	被害状況
1801	享和元 7月3日	洪水	死者82人, 損田 735 町余
1802	" 2 7月6日	"	堤防破壊 76,090 間余, 家屋流失 169 戸
1815	文化12 7月6日	洪水(亥の大変)	山田堰以南の両岸は殆んど欠壊, 小田島以南西稻生, 東吉川まで浸水, 物部川の堤は70%欠壊した. 藩中の死者83人, 家屋流失 181 戸, 損米数万石.
1822	文政5 6月3日	洪水	洪水のため流域に被害
1854	安政元 11月5日	地震・津波	4日, 5日の両日に地震があり, 4日の第2震の津波は立田近くまで寄せたという. 死者372人 負傷者180人, 焼失 2,500 戸, 流失家屋 3,200 戸余, 倒壊家屋 3,000 戸余

## □ 明治以降

西暦	年月日	原因	被害状況
1886	明治19 9月10日	洪水(台風)	この年8月20日, 9月10日, 17日, 24日と4回の台風が襲来. 物部川の堤防 300 間と 150 間の2カ所欠壊(物部川堤防事件の原因となった災害である)
1892	明治25 7月26日		右岸堤防3丁欠壊, 家屋流失3戸, 死者1人, 原野・畑の流失合計数十町歩
1899	明治32 7月8日	洪水(台風)	右岸竹が鼻堤防が約100間欠壊, 吉川村で耕地流失30町歩
1915	大正4 6月24日	洪水(梅雨)	山田堰右岸部損壊, 堰裏から小田島堤防まで61間半壊
1918	" 7 7月10日	"(台風)	増水高2丈, 家屋流失1戸, 堤防欠壊10間ほか半壊あり
1920	" 9 7月24日	"( " )	2回の台風で戸板島「お岩権現, 鳥居先より馬越の上まで欠壊, 家屋流失1戸, 吉川村で堤防欠壊164間
		"( " )	集中豪雨で佐岡地区の橋梁全て流失, 谷川沿いの田畑, 堤防用水路の欠壊流失多数あり
1934	昭和9 9月20日	宝戸台風	物部川流域での被害は記録されていない. 河川の増水1丈余
1935	" 10 6月26日 ~7月7日	洪水(梅雨)	26日~7日の大柄降雨量 654 mm, 交通途絶等が生じた
1935	" 8月28日	台風	大柄降雨量 466 mm, 被害の記録はない.

西暦	年月日	原因	被害状況
1938	昭和13 7 1日 7月5日	豪雨(梅雨)	大柄の2日雨量 765 mm, 被害不明
1943	" 18 7月24日	台風	19日~25日大柄降雨量 536 mm, 被害不明
1945	昭和20 9月17日	枕崎台風	同年10月の阿久根台風と共に流域被害は記録されていない。
1951	" 26 6月28日	大雨, 竜巻	香我美橋付近で増水 5 m, 片地村川口堤防一部崩壊
1954	" 29 8月18日	大雨	台風5号, 家屋流失1戸, 被災農地 101 ha等軽微
1954	" 29 9月14日	"	台風12号, 戸板島橋上流右岸堤防(工事中)一部欠壊, 吉川村, 物部川下の橋一部流失, 山田堰の水叩き36箇所および水越の大部分が欠壊流失, 家屋流失15戸, 浸水家屋 153 戸等
1956	昭和31 9月25日	大雨	台風15号, 物部川流域の降雨量多く山田堰が被災
1961	" 36 9月16日	"	台風18号(第2室戸台風), 家屋流失10戸, 床上浸水 147 戸, 床下浸水 113 戸, 被災農地 364 ha
1963	昭和38 8月10日	大雨	台風9号, 家屋流失6戸, 床上浸水 545 戸, 床下浸水 513 戸, 被災農地 1,178 ha
1968	昭和43 8月29日	大雨	台風10号, 家屋流失1戸, 床上浸水 8 戸, 床下浸水 30 戸, 被災農地 78ha
1970	昭和45, 8月21日	暴風雨	台風10号, 深淵の最高水位は警戒水位を 0.70 m 上回る. 南国市の被害が大きく, 南国市のみで全半壊 1,339 戸, 一部破損, 床上, 床下浸水多数, 南国市の総被害額 57 億円, 物部川橋脚の一部沈下による国道55号線の通行止
1971	昭和46 8月19日	暴風雨	台風23号, 南国市国分川ほか流域が被災
1972	昭和47 7月4日	大雨	梅雨前線, 山田堰一部崩壊, 香我美町中央付近陥没, 床下浸水 144 戸, 被災農地 150 ha, 土佐山田町吉野川流域で繁藤災害(土砂くずれ)発生死者61名
1972	昭和47 9月15日	大雨	集中豪雨により南国市国分川流域が被災
1974	昭和49 7月6日	暴風雨・竜巻	台風8号, 香長平野西北部を中心に家屋・農作物に被害
1974	昭和49 9月1日	暴風雨	台風16号, 久枝海岸の防潮堤欠壊 200 m, 稲生地区では下田川の高潮が逆流浸水した.
1976	昭和51 9月12日	大雨	台風17号, 高知市の3日雨量 996 mmの記録, 床上浸水 91 戸, 床下浸水 448 戸, 耕地冠水 196 ha

## 第3章 流域の災害

### 第1節 概要

高知県における豪雨は、発生原因として台風・前線・低気圧の3つに大別され、特に台風が高知県西側の豊後水道を北東に通過する時は、県内全般に強い影響があり、ことに足摺岬の近辺に上陸した時の仁淀川は暴風雨で大洪水となり、流域住民は大きな被害を受けてきた。

仁淀川流域を襲った過去の洪水について見ると、江戸中期、池川郷岩丸の神主阿部宗久記する『池川年代記』・幕末期、土佐市宇佐の真覚寺の和尚井上静照の記した『真覚寺日記』等信頼すべき記録に残っているものだけでも、寛文6年(1666年)7月、天保3年(1832年)6月、嘉永2年(1849年)7月、文久2年(1862年)閏8月、慶応元年(1865年)6月と仁淀川では大洪水が発生している。

仁淀川の流れの跡をとどめる恐らく最も古い記録と思われるのは、春野町秋山にある山根遺跡(縄文時代)のものである。山根遺跡は、土佐市高岡町野田の仁淀川自然堤防の上に位置する野田遺跡と並んで仁淀川下流の川沿いの遺跡では最古のものとされており、仁淀川沿いに最初に住みついて漁撈を行った縄文人の住居跡とすることができる。当時の仁淀川の下流は、春野町弘岡の下流で大きく2つに分かれていた。一本は現在の仁淀川本川、もう一本は現在の新川川の流れと同じで、甲殿で太平洋に流れ込んでいた。山根遺跡のそばをこの旧仁淀川が流れていたのである。遺跡の位置する山根台地南側の先端部は増水した河の流れに洗われて台地の先端ごとに集落遺跡も流されてしまっている。縄文時代の旧仁淀川の大洪水が山根の集落を襲った跡である。この時流された遺物類は、かつて台地の先端があって縄文人の居住場所であった地点から100m離れた秋山石屋敷の地点から発見される。前期弥生時代の住居跡やそれに付属する多くの食物貯蔵穴をさらに深く掘り下げると、やや粒の大きい砂層になる。この砂層は明らかに大洪水によって短期間に堆積したものである。この中から多くの後期縄文土器である津雲A(三里)式土器片が出土する。これらの出土品は約3800年前のものであるとされている。

弥生時代に入り、平野部で人々が稲作を始めるにともない仁淀川の周辺にも集落が増えてくる。春野町弘岡下の後田遺跡及び土佐市最古の水田耕作民の遺跡、土佐市高岡の野田遺跡等がその例である。弥生前期末、大篠式土器の時期に大洪水があったが、春野町秋山の山根遺跡発掘により確認されている。山根遺跡には、30~40cmにおよぶ砂礫層の堆積がみられ、この中に大篠式土器の破片やそれに伴う扁平片刃石斧が出土している。これは旧仁淀川が氾濫してもたらした砂礫層と考えられる。

有史以来の洪水の記録は、文字に残されたものに頼るところとなる。仁淀川の洪水に関する記録は、各種の古文書並びに碑文に記されているが、「鹿敷村庄屋所助家記」,「南路志」によれば、寛文6年(1666年)から宝暦4年(1754年)までの約90年間に仁淀川を襲った洪水は21回、不作が13回である。実に4年に1回の頻繁な災害である。

江戸初期、野中兼山は鎌田井筋を建設するとともに、八田堤防等の構築も行っているが、この堤防も大水害に対してはさほど有効ではなかったと考えられる。

江戸時代前期最大の洪水は寛文6年(1666年)の洪水である。「寛文雑記」には、

『寛文六年丙午ノ七月三日晩より雨降り四日の晩六ツ過ぎ(午後6時過)大水出る也。小同寺の座より上へ壱尺三寸上る、但し御宮へは右さしより上へ壱尺許り上る。当寺の石さしへ上れば門はたけたらず、日下村の立毛少しもなし、皆毛捨て(年貢負除)に成る。先ず毛捨ての大將渡辺左太夫殿也。稗沢山にうずら多し。』

と記されている。つまり日下村(現在の日高村)では収穫皆無の田に稗が実り、うずらが多い荒廃した惨状であった。「土佐国群書類従拾遺」には、この洪水の土佐全域での損害数量を本藩支配分と、支藩幡多中村三万石に分けて載せている。本藩支配分は左表のとおりである。略述に従ったが、実は中村三万石の方が被害が甚大であって土佐西部を台風が北上したようである。なお、この史料から考えるに、洪水は断続的に2~3波襲来している。おそらく台風の連続的な襲来か、湿舌による豪雨と台風の襲来ではなかろうか土佐西部を通ったこの台風は下流土佐地域各村にも激しい被害を及ぼしている。

七月三日、四日、十日、十一日、十五日
洪水七郡指毛流家損船死多し。
合地高五万六千六百石(区)損田
内卷万三千九百廿石(区)永荒
(一本に四万五千六百八十石(区)永荒)
合米四万石
合井筒川除九千五百一十ヶ所
合家六、六百五、八軒流れ家、潰れ家
合船百拾九艘
合人数百拾九人漂流
合年馬六百八十八疋漂流
合年六疋、馬、百七拾六疋
合材木六万九千四百(本)流失
合薪四万三千六百把流失
合紙楮三千八百四目風失
(中村三万石巻)
寛文六年(一六六六)八月十六日改め。

「弘岡志企」には下表に示す記述がある。(日高村史)これを見ると、寛文の大洪水に中島村では、田地在川成り、川東となることがわかる。「高岡郡本地地払帳」には、用石村の記事がある。『貳百三拾六石(反)三斗三升五合川成先規より引き地』、これは二十三町六反の洪水被害地が、回復不可能のままであることを示す。実に用石の石高の27%である。

江戸時代後期に入っても、仁淀川はさらに勢いを増してあばれ続けている。「袋袋」「楠瀬大枝日記」によれば、文化9年(1812)

一 地高壹反拾六代式歩
右は中嶋村渡守給田の内、寛文六年(一六六六)より川成りかへ地下され候様祈えに付き、岩崎惣兵衛上り知の内源左衛門地にて右のかえ地に遭され候間、甲乙無くわり合せ舟頭太兵衛に渡し候様に源左衛門に給らるべく候。以上
未(寛文七年)二月廿三日 小森喜八郎 坪内忠兵衛
下元惣右衛門殿
藤田吉右衛門殿
右の通り合せ付けられ候間、渡し給田かへ地高反拾六代式歩甲乙無く割り合せ舟頭太兵衛へ相渡さるべく候。以上
寛文七年(一六六七)未二月廿四日
中嶋庄屋 孫左衛門殿
同村岩崎惣兵衛上り知組頭
源左衛門殿

7月21日には、

『今日追々西郷中の洪水のさたを聞くに、仁淀川常水より三間計り、高岡、中島、塚地辺近年めつらしき大水にて、流失の家もこれある由也。高岡商人の貯ばえたる米夥しくぬれたるよし。』

又、翌22日には、

『干頭琢七来る。仁淀川洪水の話あり、近年の大洪水の由也(略)、高岡の西町は所により数軒をあらひし由、東は高き故町へひたひたに来る由也、琢七住居は野尻といふ所也。此のあたりは敷板ぎりに入る。中島は堤きれて一段の洪水と云々。』

中島堤防決潰、高岡町一帯浸水の大洪水である。同史料はまた文化13年(1816年)8月3日として

『仁淀川洪水、高岡外輪堤防崩れ中島渡りのてんや二軒流失、堤は去年の水にくづれたる所、当七日御普請落成わづか二旬にたらず、流失てんやも一軒は去年の洪水にのこりたる家、一軒は去年流れたるを再び新造したるなりとぞ。』

このように2年続きの大洪水であった。仁淀川の洪水災害は忘れた頃にやって来るのではなく、しばしば毎年のように襲来したのである。こうした洪水のなかでも大きなのは、「酉の年の大水」としては今日も古老に語り継がれる嘉永2年のものであった。吾川郡西分村(春野町)庄屋辻儀之助は、「洪水記」を残して、克明に吾南地方の被害状況から前後の処置までも後世に伝えた。また前長岡郡久礼田村(南国市)庄屋山中多之助は、親戚の書状によって吾川郡伊野村(町)の洪水の模様を伝えている。土佐市高岡町井関の広楽寺「過去帳」には、

『嘉永二年(1849)酉七月九日から大しけ、十日夜四つ片(午)時から大水、寺板敷より五、七寸上り、家流す甚八、岩手、明る十一日八つ片時(水)引く。』

同地は高い所である。それでいて家が2軒も流れている。仁淀川堤防は吾川郡側で新川付近等数カ所決潰したが、高岡側も決潰したものである。また同じ洪水について、出間村年寄林蔵の「萬日記帳」、「明神家文書」には、

『嘉永二酉年(1849)七月九日八つ時(午後2時)より雨ふり出す。風は九日夜よりふき出し十一日、十二日四つ時(午前10時)頃迄ふき、風は中の風、雨は小の雨、され洪水は仁淀川大水に付き、逆水来る故大川に付く麓総平家床へ上る。』

一方「酉の年の大水」は日高村の古老にも口伝に語り継がれている。日高村誌によれば、

今から百十七年前奥の谷旧日下大橋の北詰馬頭観世音の北裏四十メートルに森下作次さんが住んで居た。一夜何処からか大声がして「ゆるが切れたぞー」と呼ぶ声にこれは大変と外へ出て見ると、真に只ならぬ周辺一面の大水、之れは寸時も油断ならずと早速其の足で日下川へ小舟を引き上げに行ったが、舟は疾く観音杉下のコの字形空洞の崖穴に煽り込まれて、二進とも三進ともならず仕方無く馳け戻る瞬間も早や大水は津浪の猛勢で追っ掛け来て、庭から座敷を襲うて来た。仕方なく家内共は家の裏山に避難させ、自分は屋内に駆け込んで家財道具を片付ける一方、俣孫助は馬を駄屋から追い出したが、大水は逆も遠慮は無く、ツシ天井迄追及して来た。(この時同家の天井は二重張りに出来て居たと云う)斯うなると天井裏に片付けた家財道具も手におえず、思い切って草屋根を切り開いて、自分も裏山に這い登り、俣もせつせつと馬を山へ引き上げようと努めたが崖がけわしくて馬が上り得ず、モチャモチャ騒ぐ最

中予ねて妊娠して居た嫁はこの大騒動にショックを受けて産気付いたが、これは逆も其の儘に棄って置く事では無く、取り敢えず形ばかりの俄小屋を作り、安産させたがこの時生まれた赤ん坊は故日高村黒住教日下教会所長森下栄信氏の殿父森下撰太郎氏である。森下栄信氏直々の実話であるが、同家の記録には嘉永二年七月十日酉の年大水とある。

また、日高村本郷父原部落の旧家の床板には、この洪水の記録が右のように大書されていた。

同家の屋敷は相当な高地にあるのに比の有様だったから、日下全村は広々とした大海原と化したことは疑う余地はないであろう。

明治に入ってから明治19年(1886年)8月には、高知新聞に、

『新川外諸村の水害一中略一が吾川郡新川村よりの報知によるに、同日

午後5時頃仁淀川の出水甚しく、逆巻激浪天に漲り瞬くうち其一の堤防を打越すると見えしが、忽ら同村春野神社脇左右40間計りの堤防は、第1第2決潰したり。同所の人民周章狼狽、ソレ水だ逃げよ逃げよと騒ぐ間もなく、水は山を崩すの勢いで新川町に衝き入り同町始め森山村、弘岡上の村、中の村、下の村、甲殿秋山の諸村は俄然一面に一大湖水を現わしたり、甲殿港口は久しく砂礫にて塞がりたれど、其水の行て出る所なかりしも、諸村より溢れ来る水勢猛烈なりし故、遂に同口の砂石を押辺って海に流出するに至り、此れにて諸村の水は少なく減じたるが、其稲作及び雑穀損害は一方ならざるべし』

とあるように、堤防の決壊にまで至る大水害に襲われ、その後も森山堤防が1,800mにも渡って破損した明治23年9月洪水、中島堤防が決壊した明治32年7月洪水、それに追いつちをかけるように1,000mに及んで高岡堤防が決壊し、9橋が流失した明治32年9月洪水、伊野町が湖水と化し、1,123戸が浸水した明治44年洪水等大出水が続いた。

昭和にはいつてからも加茂村(現在の日高村)で2階の上まで浸水した昭和2年8月洪水を皮切りに10年、16年、18年と大洪水が打ち続き、伊野地

点流量11,680m<sup>3</sup>/secを記録した昭和20年9月の枕崎台風による大洪水があり、翌21年7月洪水時には新川堤防が76m及び200mに渡って2ヶ所決壊した(伊野地点流量11,170m<sup>3</sup>/sec)。その後、伊野地点流量12,700m<sup>3</sup>/secを記録し、堤防決壊寸前に至った昭和29年9月洪水、仁淀川治水計画改定の契機となった昭和38年8月洪水を経て昭和50年8月洪水が近年の未曾有の大災害となっている。

嘉永貳年七月十日夜大洪水  
有此家屋より垂尺六寸上ル  
高岡東郡日下村本郷 橋詰幸  
作 幸作伴 辰衛記之



写3-1-1 破堤した用石堤防と氾濫状況

## 第2節 災害年表

西暦	年月日	記 事
前3800		仁淀川大洪水
紀元頃	弥 生	山根に大洪水(前後4回あり)
二世紀		仁淀川大洪水
778	宝龜8年7月	風 雨
792	延暦11年6月17日	大洪水に長者山で仕成した平安京用材を流材する
794	延暦13年	仁淀川大洪水に小村天神は日下に移流し二社となる (越知町史)
861	貞観3年	仁淀川大洪水に小村天神は日下に移流し二社となる
1150	久安6年	風 水 〔日本凶史考〕この年風水、諸国飢窮す、〔日本朝史期〕阿波、讃岐、土佐等11ヶ国司(1151年に)申す、失損により去年の済物を免除される
1265	文永2年7月14日	洪水に山岳崩れる (池川年代記)
1281	弘安4年7月18日 及び8月3日	風雨洪水(近県記事なし)
1379	天授5年8月17日	大洪水、庄内の農民田畑流失、死者数を知らず「康暦の変」(越知町史)
1472	文明4年8月9日	中山信康、三年春から四年春にかけて吾川山莊黒岩郷宇多(今成)を開拓し、丸岩もと(今の妙見附近)より水を引き美田としたが、夏の洪水で流失する
1666	寛文6年7月3日	大水日下村の立毛少しもなし、皆毛捨て(年貢免除)に成る(寛文雑記)
1678	延宝6年7月18日	風 雨 土佐高知大風雨にて支封山内大膳亮豊明が所領(中村)をかけて民屋3,095 頽廢し、堤防800間、船20艘損ず
1701	元禄14年8月16日	大 雨 16日、17日洪水、損毛10万余石に及び吾川郡上八川村、清水に山崩れあり8人死、牛馬4匹埋る [後家年代略記] 未の刻より大雨翌朝まで止まず、17日午刻より大雨処々堤井関破損山崩る [平尾文庫一玉仙院様御行状記]
1715	正徳5年6月20日	物部川大風雨洪水、甲内堤切れ東の堀内へ押込み民家数軒流る 其の水仁淀川7合、鏡川6合、物部川9合の由
1721	享保6年7月5日	風 水 名野川、大渡村流失す
1729	享保14年	仁淀川洪水
1754	宝歴4年8月	佐川町史風雨高汐
1766	宝暦3年7月	大洪水、用石村大破損
1784	天明4年	〔佐川町史〕大風雨、倒家多く其の害宝暦4年と同様
1788	天明8年	〔佐川町史〕大洪水、大破
1792	寛政4年	〔池川年代記〕神風、神雨、古、稀なる大荒にて山崩れ、深山は七分通り根こけ中折れ家傷、満足の家は再々なし 草木吹散り枯山の如
1801	享和元年	仁淀川洪水 宇佐浦東部に防潮堤築造
1804	文化1年7月26日	風 雨

西暦	年月日	記 事
1812	文化9年7月21日	仁淀川洪水(楠瀬大枝日記) 〔高知年表〕領内暴風雨,高岡,幡多二郡被害甚大
1816	文化13年8月3日	仁淀川洪水,高岡外輪堤防崩れ,2軒流出(楠瀬大枝日記)
1830	天保1年6月25日	洪水 土佐洪水(日本災異志)
1832	天保3年7月12日	仁淀川洪水(池川年代記)
1849	嘉永2年7月9日	酉年の大水,無上の洪水,山岸大半壊れ,人家の壊れ池川郷内27軒 屋鋪形無(池川年代記)
	同 7月11日	仁淀川大洪水,伊野村人家800戸のうち600戸が被災,うち154戸 が流失,16人流死,堤防は30ヶ所決壊,内問屋坂堤は24間,平堰堤 57間,遠堰堤102間が夫々決壊
1858	安政5年7月14日	仁淀川洪水,上流より家流れ来る
1862	文久2年閏8月11日	風水,仁淀川洪水
1865	慶応16年6月22日	仁淀川洪水(真覚寺日記)
1886	明治19年8月20日	台風,仁淀村地すべり,旧寺野潰滅す
	同 9月10日	台風,大木倒れ堤防欠損(戸波村)
1890	明治23年9月11日	台風 九州・四国を横断,佐川稀有の大洪水 中島堤防決壊
1892	明治25年7月23日	台風大洪水,早稲川大水,軒下まで浸る
	同 9月12日	台風大洪水,上八川家田地流失
1899	明治32年7月8日	台風仁淀川洪水,死者多数,仁淀川中流域900ミリ近い。仁淀川堤 防中島堤欠け13戸流失,流死19人
	同 9月21日	台風,波川千本杉堤防決壊する
1911	明治44年8月15日	仁淀川大洪水,伊野町電車終点の道路浸水5尺(伊野史談)
1931	昭和6年9月26日	台風,仁淀川洪水にて仁淀村地すべりあり,伊野駅東方浸水して汽 車不通
1932	昭和7年9月8日	伊野周辺洪水被害。真夜の大雨
1935	昭和10年8月28日	台風仁淀川洪水被害
1945	昭和20年9月17日	枕崎台風 枕崎に上陸し米子へぬけた猛烈な台風。雨量長者で607mm,池川 432mm,大洪水 関東以西の死不明者3,756,県内17
	同 10月10日	阿久根台風
1946	昭和21年7月29日	台風 豊後水道北上。川内村大内の堤防決壊し,流失家屋10数戸,死者3 大崎村では山崩れ死者2,伊野町は床上浸水1,200戸
1954	昭和29年9月13日	台風12号 大型台風,雨量長者415mm,池川410mm
1956	昭和31年9月9日	台風12号 仁淀川大洪水,7~9日の雨量長者768mm,池川634mm
1959	昭和34年8月8日	台風6号 四国南端をかすめる。仁淀川大洪水
1960	昭和35年4月20日	低気圧風雨 高岡町時間雨量85ミリ
1961	昭和36年9月16日	第2室戸台風 室戸岬に上陸。仁淀川大洪水。伊野,中島警戒水位を1m余り上ま わった。死者2。
1963	昭和38年8月9日	台風9号ベス

西暦	年月日	記 事
1964	昭和39年9月25日	四国南方海上を北々西進。仁淀川大洪水,水位中島10.6m(警戒水 位7.2m)。災害救助法適用(中村市,須崎市,土佐市,日高村, 伊野町,越知町等3市4町7村)。死不明者19。 台風20号ヴィルダ
1965	昭和40年9月15日	宿毛北方に上陸,四国中央部を北東進。災害救助法適用,高知市, 安芸市,土佐清水市のほか21ヶ村 前線豪雨(台風24号)
1968	昭和43年8月28日	北上中の台風24号に前線刺激され,県下全体豪雨,各地で危険水位 突破 台風10号 豊後水道から瀬戸内海に入る。仁淀川大洪水となり,満潮と重なり 波介川に逆流して泥水が堤防を越水。死者2
1970	昭和45年8月21日	台風10号 佐賀町に上陸し横断して広島東部を日本海に抜ける。仁淀川氾濫, 宇佐床上浸水739戸。災害救助法適用,土佐市,春野町,越知町, 伊野町など26市町村
1971	昭和46年8月29日	台風23号 足摺に再上陸して海岸沿いに東進,南国市に再々上陸。県全体強風 豪雨に襲われ,伊野町枝川で国道33号浸水。死者3,災害救助法発 令,国税県税減免措置を発表
1975	昭和50年8月17日	台風5号 宿毛市付近に上陸し山口県を北上。河川の決壊3,657カ所,床上浸 水12,576,床下浸水19,730。災害救助法適用,高知市,土佐市,日 高村等19市町村。さらにこれらの市町村は10月に激甚災害の指定を 受ける
1976	昭和51年9月12日	台風17号 鹿児島南々西約240km,屋久島付近で足ぶみし,暴風雨圏に広く包 み豪雨が数日にわたり記録的な豪雨となった。日高村,伊野町で浸 水家屋。死不明県下4
1982	昭和57年8月26日	台風13号 27日0時20分に宮崎県都井岬に上陸し,周防灘を経て山口県に再上 陸し,12時すぎに日本海に入り北進した。波介川,西畑,用石地区 で内水被害が発生し,被災家屋350戸に達した
1982	昭和57年9月24日	台風19号 宇和島南から愛媛県に上陸し,広島に再上陸して日本海へぬけた。 波介川,宇治川,日下川で約520haが内水被害を受け,約320戸が 被災した

### 第3節 主要洪水の記録

#### 1 昭和36年9月 台風18号洪水(第二室戸台風)

##### 1) 気象概況

9月6日マーシャル群島東で発生した熱帯性低気圧は11日朝,グアム島の南方を通過す  
る頃には,中心気圧920mb,中心付近の最大風速60m/sとなり,超A級の規模をもつ台風

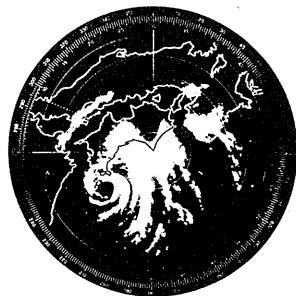
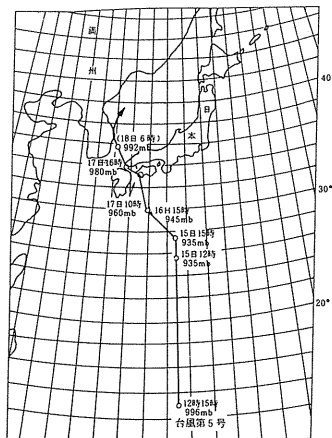
### 第3節 昭和50年災害と激特事業

#### 1. 気象・出水概況

昭和50年8月11日9時グアム島の西方約400kmの海上で、弱い熱帯低気圧(1004mb)が発生し、あまり移動しないまま、12日15時に発達して台風5号(900mb)となった。

台風はかなり早い速度(30~35km/h)で北上を続け、硫黄島の西約400kmの海上に達し、15日3時には中心気圧920mb、最大風速50m/sの大型で非常に強い台風に発達した。

台風は、東海上から西日本に根強く張り出した太平洋高気圧に進路を阻まれ、急にスピードを落しながら進路を北西に変え、15~16日にかけて、ゆっくり四国地方に接近し、17日8時50分、高知県宿毛市付近に上陸した。中型で並の台風になっていたものの中心気圧960mb、最大風速40m/s、暴風半径東側200km、西側110km、15m/s以上の強風半径東側450kmであり、四国西岸をか



四国を直撃せんとする台風5号のレーダー映像(8月17日午前17時室戸岬測候所)

図4-3-1 台風5号進路図

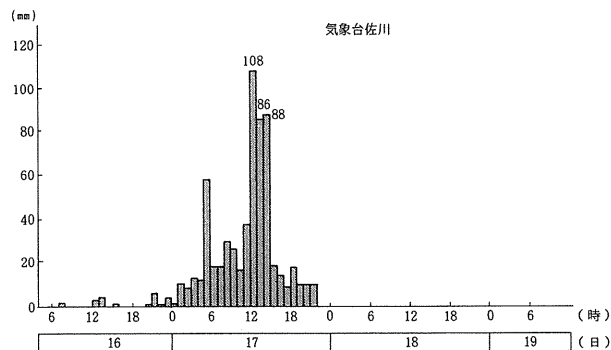


図4-3-2 時間降雨実績(台風5号)

すめて、昼過ぎに伊予灘へ入るまではこの勢力が維持された。台風は正午過ぎに伊予灘に入って急激に衰弱し、15時には中心気圧980mb、最大風速25m/sに衰え山口県を縦断して日本海にぬけた。

この台風は高知県にとって最悪のコースをとり、西日本に近づくとつれて速度が15~20km/hと遅くなり、上陸後も北上を続け夏型台風の特徴を示した。雨域が東側半円に集中し、通過後も南よりの強い風が長時間続き、地形の影響も加って雷を伴う激しい雨が降り続き、記録的な集中豪雨となった。

四国地方は東海上から西日本に張り出した太平洋高気圧が根強かったため、15日までは天気が良く台風が室戸岬の沖約450kmに達した16日早朝から南岸で風波が高くなるとともに、にわか雨も降り始めた。この頃から台風の速度が非常に遅くなったため雨域の移動も遅くなり、16日深夜になってやっと四国全域が雨になった程度で強雨域はまだなかった。

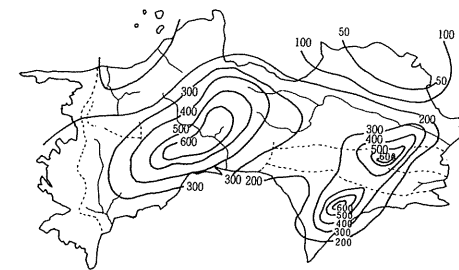


図4-3-3 台風5号総雨量分布図(昭和50年8月16日9時~18日9時)

しかし、台風の接近とともに高知県西部では17日未明から暴風雨圏に入り、四国南部を中心に20m/s以上の強風と1時間雨量10~30mm、3時間雨量30~100mmの強雨がいった。

特に台風がすぐ近くを通過した高知県高岡郡佐川町では、1時間雨量108mm(12~13時)、86mm(13~14時)、88mm(14~15時)と連続して驚くべき豪雨を記録した。

台風が中国地方へ去った18時頃にも台風にかき込む南風が続いたため、高知県中部から愛媛県中部山間部では依然として強雨が17日夜半まで続いた。特に高知県土佐郡では1時間雨量107mm(16~17時)、119mm(17~18時)を記録した。

(17日の雨量、北部50~100mm、南部200~300mm、特に高知県中部山間部500~600mm所により600mm以上)

台風が日本海に抜けた後も天気は不安定で18日もにわか雨がいった。

台風が8月17日8時50分頃高知県宿毛市付近に上陸した時点で伊野地点水位は2.40m(低水位1.10m)であったが、仁淀川中流域に降った強い雨により水位は徐々に上昇し、12時30分には、指定水位を0.25m越えて、その後1時間に1mという急上昇を見せ、14時には警戒水位を0.5m越え、18時46分には既往最高水位(昭和38年8月9日洪水10.10m)を上回り、さらに計画高水位(10.15m)を0.05m突破する10.20mを記録した。

流量観測はピーク時には観測出来なかったが、伊野地点最高水位10.20mの最大流量は14,000m<sup>3</sup>/sec程度の流量と考えられる。



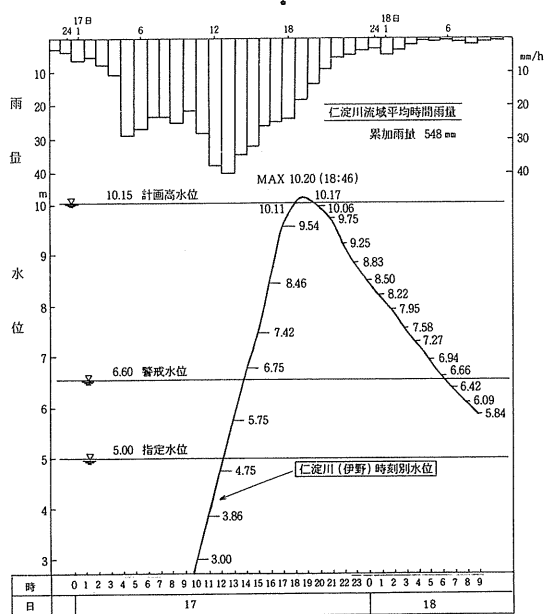


図4-3-4 昭和50年台風5号仁淀川伊野地点水位ハイドログラフ

2. 被害状況

台風5号による高知県下の被害は、死者、行方不明77名、全半壊住家1,760世帯、床上浸水家屋12,240世帯、総被害額は1,400億円にも達し、そのほとんどが仁淀川流域に集中していた。



写4-3-1 災害状況を報じる新聞

表4-3-1 昭和50年台風5号による災害状況

区分	人的被害(人)				家屋被害(戸)						
	死者	行方不明	重傷	軽傷	計	全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水	計
市町村											
土佐市	6	0	4	6	16	33	38	662	2,961	3,750	7,444
伊野町	21	2	18	35	76	128	100	160	2,083	2,450	4,921
春野町	0	0	1	0	1	3	5	32	60	130	230
日高村	24	0	26	11	61	71	70	1,025	638	111	1,915
計	51	2	49	52	154	235	213	1,879	5,742	6,441	14,510

表4-3-2 激特河川の被害状況

河川名	出水状況					
	仁淀川水位 (伊野地点)		代表観測所雨量			
			地点名	雨量区分	今回雨量 (台風5号)	これまでの 最大雨量
日下川	指定水位	(m)	佐川	総雨量 2日雨量 最大3時間雨量 最大1時間雨量	732.0 (mm) 644.0 282.0 108.0	(mm) 556 154 81
宇治川	警戒水位	6.00	伊野	総雨量 2日雨量 最大3時間雨量 最大1時間雨量	476.5 450.0 185.0 74.0	
	計画高水位	10.15				
波介川	台風5号の ピーク水位	10.20	市野々	総雨量 2日雨量 最大3時間雨量 最大1時間雨量	637.5 580.5 207.0 100.0	

河川名	被害状況						激特採択条件
	最大湛水位	最大浸水面積	家屋被害				
	(T.P.m)	(ha)	床上浸水	左のうち 軒下浸水	床下浸水	浸水家屋 計	
日下川	21.20	545	659	384	121	780	著しい浸水家屋 (軒下浸水程度) 150戸以上
宇治川	15.00	260	323	121	1,400	2,723	浸水家屋2,000 戸以上
波介川	9.00	1,590	1,915	381	1,489	3,354	同上

死者、行方不明者のほとんどが山地の土砂崩壊によるものであるが、これは総雨量が大きかったこともさることながら、数時間の降雨強度がきわめて異常であったことによるとみられる。

一方、洪水についてみると、短時間強雨の重心が仁淀川中流域から下流域へ、さらに西から東へと移動しており、下流部では仁淀川の最高水位が異常に早く現れ、仁淀川に合流する各支川流域では、洪水のピークが重なり流出量の大部分を内水として抱え込む形となって大氾濫となった。被害状況は、表4-3-1のとおりで、平地の全てが氾濫したと言えるほど各支川の被害は激甚を極め、避難する場所さえも失われた内水氾濫が被害を一層悲惨なものとした。

支川が空前の氾濫被害を被ったほかに、仁淀川本川でも、伊野地点水位が10.20 mを記録し、計画高水位10.15 mをも上回る戦後最大洪水となったため土佐市の用石堤防が越水により破堤したのをはじめ、沿川各所において、法崩・漏水・決壊等が相次ぎ河川災害の総額は約10億円にも達した。このような支川災害の影に隠れて本川の災害はあまり目立たなかった

もの大災害を被っている。

各河川の出水及び被害状況は表4-3-2のとおりであり、この被災に因み、日下川・宇治川・波介川の3河川が激甚災害対策特別緊急事業に採択された。

### 3. 直轄河川激甚災害対策特別緊急事業

仁淀川における昭和50年5号台風災害に対し、激特事業として直轄河川・補助河川・補助砂防のそれぞれに採択され事業が推進した。河川激甚災害対策特別緊急事業とは、昭和51年度より激甚災害に対処するための特別の財政援助等に新たな制度として発足したものである。災害が発生した場合、従来は災害対策として災害復旧事業、緊急改修計画によって対処していたが、災害復旧事業の採択は原則として他の改良計画がないものとなっており、一般災害が激甚であっても公共土木施設災害がない場合、もしくは公共土木施設災害が大きい場合であっても直轄河川区域内および補助河川の改修計画区間にあっては、災害復旧助成事業、災害関連事業の対象とはならないことになっている。また、再度災害を防止するための必要最小限の緊急改修計画を樹てても、このように突発的に発生する行政需要を5カ年計画の河川事業の枠の中で処理することは、計画上および財務上の制約等のためきわめて困難等の問題があり、新しい災害対策制度を望む声が高まってきた。このような強い社会的要請の中で、昭和51年度から河川・砂防にかかわる激甚災害を対象として、激甚災害対策特別緊急事業制度が発足することになった。この新しい制度の狙いは、特定の要件に適合した激甚災害河川については、一定計画に基づき一定期間内（おおむね5カ年程度）に緊急に事業を完成しようとするものである。この事業は、洪水・高潮等により激甚な災害が発生した地域について、災害復旧助成事業または災害関連事業の対象とならない場合に河川の改良事業を緊急に実施することにより、再度災害の防止を図り国土の保全と民生の安定に資すること

表4-3-3 全体計画

河川名	全体計画(当初)		全体計画(最終)		備考
	事業費 (百万円)	事業の主な内容	事業費 (百万円)	事業の主な内容	
日下川	9,800	放水路トンネルの新設 (径7.0m, L=4,999m) (開水路部 l = 252m) (トンネル部 l = 4,465m) (サイホン部 l = 282m) 橋梁2橋	12,799.1	放水路トンネルの新設 (径7m, L=4,997.5m) (開水路部 l = 251.5m) (トンネル部 l = 4,464.5m) (サイホン部 l = 281.5m) 橋梁2橋	
宇治川	2,500	ポンプ20m <sup>3</sup> /sの増設 河道改修(3.2km) 橋梁改築9橋	3,370.6	ポンプ20m <sup>3</sup> /sの増設 河道改修(2.8km) 橋梁改築8橋	
波介川	4,300	波介川水門の新設 用石堤防の改築(1,400m) 河道改修(2.4km) 橋梁改築3橋	5,114.6	波介川水門の新設 用石堤防の改築(1.4km) 河道改修(2.5km) 橋梁改築2橋	
計	16,600		21,284.3		

# 1. 主要年表

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和21 ? 昭和25	21.11.16 内務省 中国四国土木出 張所物部川工事 事務所 日章村 に開設(現南国 市立田)	21.11.16 物部川 直轄改良工事が 所掌となる			21.12.21 南海大 地震	
	22. 5. 1 深淵工 場を設置	23. 1.18 物部川 総合開発計画協 議会の開催(高 知県議会)			22. 7.12~21 梅雨末期の大雨 (昭和12年来の 記録で高知市で 752ミリ)	23. 1. 1 総理府 建設院発足
	23. 1. 1 建設院 中国四国地方建 設局物部川工事 事務所に名称変 更					
	23. 7.10 建設省 設置により建設 省中国四国地方 建設局物部川工 事事務所に名称 変更	23. 9. 1 仁淀川 直轄改良工事が 所掌となる				23. 7.10 建設院 を建設省と改称
	23. 9. 1 物部川 工事事務所より 高知工事事務所 に名称変更	23.11 「物部 川総合開発計画 概要」発表				
	23. 9. 1 深淵工 場より日章出張 所に名称変更	23.12.11 物部川 総合開発事業地 方協議会の開催 (高知県他)				
	23. 9.16 高岡出 張所を設置					
	23.11. 1 永瀬出 張所を設置					
	23.12.18 事務所 庁舎新築(高知 市天神町)					
		24. 3 宇治川樋 門改築 <高知県>			24. 6.21 台風2 号デラ 24. 8.15 台風9 号ジュディース	
	25. 8. 1 永瀬出 張所を廃止	26. 1. 9 永瀬ダ ム起工式 <物部工事>			25. 9. 3 台風28 号ジェーン 25. 9.13 台風29 号キジア	25. 8. 1 物部工 事事務所開設
昭和26 ? 昭和30	26. 5. 1 庶務課、 工務課を設置	26.11. 8 吉野発 電所起工式 <高知県>			26. 7. 7~17 梅雨前線による 豪雨(波介川流 域300町歩浸水) 26. 8.22 台風11 号マージ 26.10.14 台風15 号ルース	

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和26 昭和30	27. 7. 1 弘岡出張所を設置 27. 8. 1 佐川出張所を設置	27.11.27 永瀬ダム定礎式(物部工事) 28. 3 永瀬発電所着工(高知県) 28. 4 吉野ダム完成(高知県) 28. 4 吉野発電所発電を開始(高知県)		27. 4. 1 現33号改築工事に着手 27.12. 4 23号国道が一級国道32, 33号線となる(政令第477号) 28. 5.18 現在の56号が2級国道松山高知線(路線番号197号)となる 29. 5.20 第1次(29~33年度)道路整備5箇年計画閣議決定	27. 6.23 台風2号ダイナ 28. 6.25~29 梅雨前線による大雨のため越知付近で水位3.4mに達し警戒水位を突破 28. 9.25 台風13号テス 29. 8.18 台風5号グレイス 29. 9.11~14 台風12号により仁淀川で警戒水位を突破 浸水による避難命令が出される(美川1520ミリ) 29. 9.26 台風15号洞爺丸台風 30. 6.15 前線による大雨 物部川上流に豪雨 30. 9.27~30 台風22号のため仁淀川下流に水防警報が発令(池川410ミリ)	
	30. 7. 1 工作出張所を設置	30. 8. 永瀬発電所発電を開始(高知県)				
昭和31 昭和35		31. 6. 6 永瀬ダム竣工式(物部工事) 31. 9.19 物部川ダム放流予報連絡会発足(関係市町村他) 32. 4 杉田発電所着工(高知県)		31. 8.17 台風9号池川町に局地豪雨(池川380ミリ・91ミリ/日) 31. 9.23~28 台風15号により高知市478ミリ(測候所開設来の豪雨) 32. 8.15~22 台風7号により警戒水位突破(池川712ミリ) 32. 9. 9~11 前線低気圧 32.11.20 台風号による高潮香長村十市地区の海岸一帯に高潮来襲		

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和31 昭和35	33. 6. 1 建設省四国地方建設局高知工事事務所に名称変更 33.10.30 佐川出張所より高知出張所に名称位置変更	33. 4 物部川及び仁淀川の水防警報が所掌となる		33. 3.31 赤土隧道完成 33. 4 国道32号改築工事が所掌となる 33. 8.29 窪内坂改築工事着工(直営及び請負)	33. 3. 9 関門国道トンネル完成 33. 4. 1 道路整備緊急措置法施行 33. 4.24 下水道法改正公布 33. 4.25 工業用水道事業法公布 33. 6. 1 建設省四国地方建設局発足(高松市松島町) 33. 8. 1 道路構造令公布 33.12.23 海岸保全施設築造基準の通達 33.12.25 公共用水域の水質の保全に関する法律公布	
	34. 4. 1 東高知出張所を設置 34. 5. 1 高知工事事務所土地区画整理で施ノ辻98番地に地名変更 34.10. 1 東高知出張所の位置変更	34. 9.11 杉田発電所発電を開始(高知県)		34. 2.20 第2次(33-37年度)道路整備5箇年計画閣議決定 34. 4. 1 国道32号・33号の経済調査に着手 34. 7.11 直轄工事の請負化に伴い建設機械の大幅な貸与を実施 34. 9. 9 大坂峠改築工事着工	34. 7.14 前線による大雨 物部川上流に豪雨(77ミリ/日) 34. 8. 4~9 台風6号により仁淀川で警戒水位突破 34. 9.26 伊勢湾台風(15号)	34. 8. 5 四国地方開発特別法制定推進協力高知県協議会発足
	35. 4. 1 調査課を設置 35. 4. 1 高知出張所より高知国道出張所に名称変更 35. 4. 1 東高知出張所より東高知国道出張所に名称変更 35. 4. 1 工作出張所より高知工作出張所に名称変更	35. 6.23 物部川河口高潮堤防着工 35.10. 面河堰堤工事着工(農林省) 35.11 杉田ダム完成(高知県) 35.12.27 第1次(35~39年度)治水事業5箇年計画閣議決定 35.12.27 35年度以降治水事業10箇年計画の閣議決定		35. 4. 1 四国自動車道路網調査開始 35. 9. 2 板木野地区改築工事着工 35.10.18 大杉地区改築工事着工 35.10.25 霧生岡地区改築工事着工 36. 2 四ツ足トンネル着工(高知県) 36. 3 荒倉トンネル完成(高知県) 36. 3.20 大坂峠改築完成	35. 5.24 チリ地震津波 35. 8.27~9. 3 台風16号のため物部川、仁淀川流域で被害	35. 4. 1 治山治水緊急措置法施行 35. 4.28 四国地方開発促進法施行 35. 5 四国地方産業開発委員会発足 35. 6.25 道路交通法公布 35. 7 四国地方開発審議会発足 35. 7.22 高知県の開発計画決定 35. 8.25 室戸岬レーダー据付 35.12.27 国民所得倍増計画閣議決定
昭和36 昭和40	36. 4. 1 用地課を設置	36. 4. 1 仁淀川総合開発事業調	36. 4 土佐湾沿岸の海岸保全施	36. 4 東高知道路(藪野)に着	36. 9.16 第二室戸台風深淵最高	36.10. 1 土讃線に初めて急行が

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和36 昭和40	36.5.16 建設監督官を設置 37.3.31 高知工作出張所を廃止	査開始	設に関する調査が所掌となる	手 36.8.22 根曳峠改築工事着工 36.9.30 横倉地区改築工事着工 36.10.10 日高地区改築工事着工 36.10.24 天坪地区改築工事着工 36.10.27 第3次(36-40年度)道路整備5箇年計画閣議決定	水位3.22m 36.12.11 越知町横倉で大崩壊(約1週間交通不能となる)	走る 36.11.7 宅地造成等規制法公布 36.11.13 水資源開発促進法、公布 36.11.15 災害対策基本法公布
	37.4.1 土佐国道工事事務所設置により東高知国道出張所を組織替 37.4.1 機械課を設置 37.10.1 高知国道出張所より佐川国道出張所に名称、位置変更	38.2.26 物部川浄化推進協議会発足(流域市町村等)		37.4.1 国道32号改築工事を土佐国道工事事務所に引継 37.5.1 2級国道松山高知線が1級国道56号線に昇格 37.6.21 川口地区改築工事着工 37.8.5 ケヤキ谷地区改築工事着工 37.8.10 堀切隧道着工(地建初の国債工事) 38.2.26 唾内坂改築完成		37.5.1 水資源開発公団設立 37.9.15 高知、須崎が低開発地域工業開発区に指定
	38.6.30 高岡出張所を廃止 38.7.1 日章出張所より物部川出張所に名称変更 38.7.1 仁淀川上流調査出張所を設置 38.7.1 弘岡出張所より仁淀川出張所に名称変更 39.3.31 機械課を廃止	38.7.1 大渡ダムの予備調査に着手 38.11.6 面河ダム貯水式<農林省> 38.11.26 後川樋門改築工事着工 38.12.13 西畑地区の締切工事着工		38.4.1 元2級国道194号、197号がそれぞれ1級国道55号56号に昇格 38.4.1 国道56号改築工事に着手 38.6. 引地、二子野、藤谷、青濱地区改築工事着工 38.7.31 土佐市甲原地区改築工事着工 38.11.5 大尾地区改築工事着工 38.12.27 野老山地区改築工事着工 39.2.20 霧生関地区改築完成 39.3.10 堀切隧道完成(開通式4.4)	38.8.7~11 台風9号ベスにより仁淀川で警戒水位突破 波介川逆流、高岡地区の一万人に退避命令、物部川、仁淀川の堤防が被災、宇治川樋門扉3門が破壊	38.4 早明浦ダム実施計画調査に着手
	39.4.1 須崎国	39.11.30 後川樋		39.4.1 引地橋	39.8.21~25	39.7.20 四国地

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和36 昭和40	道出張所を設置 39.4.1 副所長(事務)を設置	門完成 39.12.19 宇治川樋門増築工事着工(3門継足、3門改築前年8月の災害を高知県の委託と合併施工) 39.12 八田堰完成<高知県> 田の裏堤防完成 40.3.30 仁淀川の38年災害(9号台風)の復旧工事を完成 40.3.31 物部川野市統合堰完成<高知県>		完成 39.10.22 寺村隧道着工(国債) 39.11.23 四ツ足トンネル開通式<高知県> 40.1.29 第4次(39~43年度)道路整備5箇年計画閣議決定 40.3 引地橋、西森山橋完成 40.3.25 根曳峠改築完成<土佐国道>	台風14号により仁淀川流域に水防警報発令 39.9.23~25 台風20号により県災害救助法を発令	区用地対策連絡協議会発足
	41.3.31 仁淀川上流調査出張所を廃止 41.3.31 須崎国道出張所を廃止 41.3.31 佐川国道出張所を廃止	40.4.4 面河ダム完工式 40.8.27 第2次(40-44年度)治水事業5箇年計画閣議決定 40.12 宇治川樋門改築完成	40.4.1 高知海岸事業調査開始(香美郡夜須町~土佐市新居)	40.4.1 道路法の一部改正の施行(元1級国道及び元2級国道が一般国道となる) 40.5.27 国道56号高知県内で直轄管理(高知市朝倉~須崎市多ノ郷) 40.10.26 須崎、安和間改築工事着工(国債) 41.3.25 寺村隧道完成	40.9.10 台風23号安芸市上陸 40.9.17 台風23号により物部川が被災(物部川低水護岸、根固が被災する)	40.4.1 新河川法施行 40.4.1 早明浦ダム建設に着手 40.12.15 四ツ足トンネル完成<高知県> 41.1.10 四国地方建設局庁舎新築(高松市福岡町)
昭和41 昭和45	42.2.10 事務所庁舎増築工事完成	41.4.1 仁淀川水系1級河川に指定 (直轄管理区間 仁淀川13.53km、波介川2.1km、宇治川17.3km) 41.6.1 仁淀川水系工事実施基本計画改訂 41.7.20 仁淀川の工事実施基本計画を策定、同時に基本高水のピーク流量を改訂 41.12.25 宇治川樋門増設完成		41.4.1 越知バイパス着工 41.6.21 名野川橋完成 41.7.15 第1次(41-43年度)交通安全整備事業3箇年計画閣議決定 42.3.17 国道33号高知県内の一次改築を完了		41.4.1 交通安全施設等整備事業に関する緊急措置法施行 41.4.1 大渡ダム実施調査に着手 41.7.1 国土開発幹線自動車建設法において四国地域で四国縦貫自動車道及び四国横断自動車道の2路線を予定路線として規定 41.8.31 四国地方建設局災害対策要綱の制定 41.8.18 建設省は第5次道路整備5箇年計画策定の中で本四連絡橋着工を決定

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等	
	一般	河川	海岸	道路	災害		
昭和41 ～ 昭和45		42. 天崎堤防完成 42. 4. 1 仁淀川の所管区域のうち大渡ダム調査事務所の所管区域が除かれる 42. 4. 1 仁淀川に係る指定区間外の河川法第6条1項3号の区域を指定 42. 6. 1 物部川水系1級河川に指定(直轄管理区間物部川10.48km) 42. 6. 1 物部川水系工事実施基本計画決定 42. 7.26 仁淀川における砂利等採取許可処分取消事件が提訴される(12.18取下) 42. 8.20 治水事業長期計画を策定 42.12.23 仁淀川支川波介川河口導流計画決定 43. 1. 1 仁淀川直轄管理区間の砂利採取全面禁止 43. 2. 1 物部川直轄管理区間の砂利採取全面禁止		42. 4 佐川バイパスに着手 42. 6.23 国道32号高知県内一次改築完了 42.11.25 四国治水期成同盟会発足 42. 7.31 国道32号, 33号全線を指定区間として指定 42. 8. 5 国道32, 33号Vルートの完工式 42.12.23 焼坂地区改築工事着工(国債) 角谷, 久保宇津, 安和, 久礼トンネル完成 43. 1.20 久礼坂地区改築工事着工 43. 3.22 第5次(42~46年度)道路整備5箇年計画閣議決定		42. 4. 1 早明浦ダム建設事業を水資源開発公団に移管 43. 3 高知県開発総合計画(42~46)決定	
44. 1. 1 事務所住居表示呼称変更となる(高知市梅ノ辻16-10)	44. 3.25 第3次(43~47年度)治水事業5箇年計画閣議決定	43. 4 土佐湾沿岸の海岸保全施設に関する工事が所掌となる 43. 4.17 高知海岸が特定海岸に指定(南国市~春野町20km) 44. 3.29 直轄海岸区域告示(物部川河口~高知港境)	43. 5.30 角谷坂地区改築完成 43. 9. 7 窪川地区改築工事着工 43.11. 1 寺村トンネル騒音事件提訴される 43.12.24 西森山橋完成	43. 8 台風10号(波介川が氾濫)	44. 1.25 浦戸大橋着工<道路公団>		
44. 9.30 仁淀川出張所地名変更	44.12. 8 物部川に係る指定区間外の河川法第6条第1項第3号の区域を指定	44. 4. 1 高知海岸で直轄海岸事業に着手 44. 6.16 高知海岸直轄工事施工	44.12. 2 第2次(44~46年度)交通安全整備3箇年計画閣議決定		44. 4 南国バイパス高須物部間供用開始<土佐国道>		

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等	
	一般	河川	海岸	道路	災害		
昭和41 ～ 昭和45	45. 3.30 仁淀川出張所庁舎新築						
45. 4.20 経理課を設置			45. 9. 6 土佐湾高潮対策技術会議発足(高知県他) 46. 3.30 第1次(45~49年度)海岸事業5箇年計画閣議決定	45. 1. 1 安和久礼間供用開始 45. 1.20 焼坂トンネル完成 45. 2.28 中土佐地区改築完成 45. 3.31 越知橋完成 45. 3. 大渡ダム関連付替道路着手 45. 5.26 柿ノ木所有権確認事件提訴される 45. 8.20 須崎市落石事件 最高裁判決<高知県> 45.12.16 久礼坂改築完成 45.12.20 新荒倉トンネル着工 46. 2.22 第1次(46~50年度)交通安全5箇年計画閣議決定 46. 3.30 第6次(45~49年度)道路整備5箇年計画閣議決定	45. 7. 8 集中豪雨, 八幡, 吹越浸水 45. 8.21 台風10号土佐湾一帯を直撃(物部川橋中央部陥没し通行止, 高知市の大半が水没)	45. 6.18 南国須崎間基本計画決定<道路公団> 45.12.25 水質汚濁防止法分布	
昭和46 ～ 昭和50			47. 3.27 土佐湾高潮対策技術会議計画部会を開催	46. 4. 土佐道路事業着手 46. 7.14 大渡ダム関連付替道路橋地区完成 46. 9.29 新鏡川橋着工 46.10. 8 下知伊野線および能茶山針木線都市計画決定 46.12.21 土佐道路ルート承認 47. 2.22 第1次(46~50年度)交通安全整備事業5箇年計画閣議決定	46. 8. 2 台風19号物部村で492ミリ, 風雨で国道など被害 46. 8.28 台風23号高知空港付近に上陸(宇治川流域浸水)	46. 6.8 大豊南国間基本計画決定<道路公団> 47. 3 「新高知開発総合計画」決定	
			47. 6.30 第4次(47~51年度)治水事業5箇年計画閣議決定 47.10. 1 宇治川排水機場新設工事着工	47.12.18 高知海岸の久枝, 香西地区の漁業補償交渉妥結(契約12. 20) 47.12.19 第2回高知海岸工事検討会開催	47. 5. 1 国道56号, 全区間が指定区間となる 47. 7.25 国道56号高知県内一次改築完了 47. 9. 1 高知市, 春野町地区改築事業認定告示	47. 7. 3~6 豪雨で物部川警戒水位を突破 47. 7. 5 豪雨により繁藤で山崩れ 47. 9.14 集中豪雨, 小河川の堤防決壊相次ぐ	47. 4.27 浜改田古ビニール公害事件高知地裁に提訴 47. 6.30 川之江大豊間基本計画決定<道路公団> 47. 7. 1 本州四

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和46 昭和50		48 大内堤防完成 48. 3.31 物部川 合同堰完成 (高知県) 48. 3.31 物部川 付帯工事として の戸板島橋完成	48. 1.17 土佐湾 高潮対策技術会 議解散	47.11.22 佐川パ イパス事業認定 告示	47. 9.16 台風20 号	国連絡橋公団設 立 47. 7.12 浦戸大 橋完成 (道路公団)
	48. 4.16 工務第 一課を設置 48. 4.16 工務課 より工務第二課 に名称変更	48. 4.12 宇治川 (2.9km)を直 轄区域に編入	48.10.28 高知海 岸の離岸堤建設 に着手 49. 3.22 高知海 岸で最初の離岸 堤が完成 (4号堤)	48. 5. 1 鏡川橋 完成 48. 6.29 第7次 (48~52年度) 道路整備5箇年 計画閣議決定 48. 9.19 荒倉鉾 業権補償事件提 訴される 48.11.20 佐川パ イパス所有権確 認事件提訴され る 48.12.17 国道33 号吾川村所有権 移転登記抹消事 件提訴される 49. 1.31 舟戸ト ンネル着工 49. 2. 1 佐川パ イパス完成 49. 3.25 新荒倉 トンネル完成		48.10.19 大豊南 国間整備計画策 定<道路公団> 48.11.10 早明浦 ダム竣工式
	49. 4.11 河川管 理課を設置 49. 5. 1 物部川 出張所庁舎新築 50. 3. 3 事務所 庁舎新営工事着 工(高知市六泉 寺町)	49. 4.11 仁淀川 本川上流部(1.9 km)支川宇治川 上流部(0.4km) を直轄管理区間 に編入 49.10. 1 四国管 内で初の河川愛 護モニターを委 嘱する(物部川, 仁淀川)	49. 8.30 離岸堤 ブロック重量30 t型に変更	49. 4. 1 土佐道 路用地交渉開始 49. 4. 1 筆山道 路計画線調査に 着手 49.11. 6 柿ノ木 所有権確認事件 控訴される	49. 8.18~9.1 台風14, 16号の 波浪で海岸堤防 (久枝地区)300 m破堤	49. 5.23 浜改田 古ビニール公害 訴訟一審判決
	50. 4. 3 副所長 (技術)を設置	50. 5. 8 新居堤 防損害賠償事件 堤訴<高知県> 50. 8. 3 宇治川 排水機場完成 50.10. 4 新居樋 門着工 50.12.13 宇治川 排水機場増設着 工	50. 4. 海岸保全 施設に関する工 事の所掌で高知 県海部灘沿岸豊 後水道東沿岸地 区が追加となる 50. 5.24 高知海 岸災害復旧工事 で全建準賞を受 賞	50. 4.15 柿ノ木 所有権確認控訴 事件判決 (確定) 50. 5. 6 寺村ト ンネル騒音事件 和解 50. 5 舟戸ト ンネル完成 50. 9 大渡ダ ム関連付替道路 完成(2.9km) 50.12.25 熊秋ト ンネル完成 (土佐国道)	50. 8.17 台風5 号仁淀川大災害 激甚災害指定 50. 8.19 台風6 号室戸で瞬間最 大風速55.2m/s	50. 4. 1 室戸岬 有料道路完成 (高知県) 50.11. 1 高知調 査事務所開設 (道路公団) 51. 1.15 仮谷建 設大臣急逝

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和51 昭和55	51. 5.10 高知海 岸出張所を設置 51.10. 1 週休2 日制試行に入る 51.12.21 事務所 庁舎新築(高知 市六泉寺町)	51. 5.10 激甚災 害対策特別緊急 事業が創設, 波 介川, 宇治川, 日下川の事業が 採択される 51. 5.10 仁淀川 ブロック転倒事 件が提訴される 51. 7 土石流災 害の発生機構と 警戒避難体制の 調査着手 51.11.15 土佐市 用石地区事業認 定告示 52. 1.20 用石橋 着工 52. 1.29 日下川 放水路トンネル 工事着工 52. 3.30 新居樋 門完成 52. 3.30 用石堤 防の復旧改築完 成	52. 2.18 第2次 (51~55年度) 海岸事業5箇年 計画閣議決定	51.11. 9 第2次 (51~55年度) 交通安全整備事 業5箇年計画閣 議決定 52. 1. 9 土佐道 路工事に着工 52. 3.15 国道56 号新荘川橋事業 認定告示	51. 7.23~26 台風11, 12号 51. 9.12 台風17 号(日高村, 伊 野町, 土佐市, 高知市豪雨禍を 受ける)	51. 5.11 国債に よる公共用地先 行取得の実施 51. 6.28 大渡ダ ム本体コンクリ ート打設始まる (大渡ダム) 51. 7. 2 大鳴門 橋起工式 (本四公団) 52. 2.25 浜改田 古ビニール公害 訴訟取り下げ 52. 3.31 仁淀川 河口大橋完成 (高知県)
	52. 4.18 用地官 を設置	52. 5.31 仁淀川 治水対策協議会 発足 (高知県他) 52. 6.12 物部川 大橋(下の橋) 開通 52. 6.28 第5次 (52~56年度) 治水事業5箇年 計画閣議決定 52. 7.21 北山橋 着工 52. 7.31 宇治川 排水機場増設を 完成(激特) 52. 9.30 用石橋 完成 52. 9.30 日下川 放水路トンネル 全工区に着工 (激特) 52.12. 3 南の谷 川排水機場着工 52.12.25 波介川 水門本体工事着 工 53. 3.23 物部川 大橋(下の橋) 全事業完成 53. 3.25 谷水門 着工 53. 3.25 北山橋		52. 6.21 佐川パ イパス所有権確 認事件控訴され る 52. 7. 5 越知改 築所有権確認事 件提訴される	52. 6.15 鏡ダム 災害提訴 (高知県) 52. 9.24 大豊南 国間工事実施計 画認可<道路公 団> 52. 9.30 大豊南 国間路線発表 (道路公団) 52.10.21 大渡ダ ム定礎式 52.12. 9 大豊南 国間杭打式 (道路公団)	

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和51 昭和55		完成 53. 3.31 日下川放水路事業認定告示				
	53. 4. 6 工務第三課を設置	53. 9.14 波介川水門事業認定告示 53.11.10 奥田川樋門着工 54. 1.26 宇治川河道改修事業認定告示 54. 3.25 用石排水機場着工	54. 2.24 浜改田地区の離岸堤計画決定	53. 4 国道33号の改築工事が所掌から削除 53. 5.19 第8次(53~57年度)道路整備5箇年計画閣議決定 53.10.13 河ノ瀬橋着工 53.10.21 土佐道路事業認定告示 53.11. 2 国道56号新荘川橋完成 54. 3.30 土佐道路建物収去土地明渡請求事件提訴する		
	55. 2.20 高知海岸出張所庁舎新築	54. 4. 4 波介川上流部(0.13km)を直轄管理区間に編入 54. 7.19 奥田川樋門着工 54. 9. 5 仁淀川直轄管理区間の砂利採取全面禁止を一部解除 55. 1.29 日下川第1, 第2工区貫通式 55. 3.13 音竹橋着工 55. 3.13 天神橋着工 55. 3.29 小野橋着工 55. 3.30 波介川激特事業完成  55. 5.15 波介川水門竣工式 55. 5.20 竹崎橋完成 55. 7.10 今市橋放水路橋着工(完成56.3.25) 55. 7.31 用石排水機場完成 55. 9. 8 仁淀川ブロック転倒事件棄却される 55. 9.19 前川橋着工(完成56.3.25)	55. 1. 8 浜改田地区の漁業補償契約締結	54. 6.11 佐川バイパス所有権確認事件上告する 54. 7. 8 土佐道路朝倉地区改築工事着工 54. 8.21 土佐道路城山地区改築工事着工 54.11.21 石立地下横断歩道着工	54. 9.30 台風16号高知海岸仁井田地先海岸堤防決壊	54. 6.25 大豊インターチェンジ起工式<道路公団>
					56. 2.24 国家公務員4週5休制決まる	

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和51 昭和55		55. 9.20 奥田川樋門完成 55.10.25 砂ヶ森橋着工(完成56.3.20) 55.10.31 谷水門完成 55.11.20 天神橋完成 55.12.10 音竹橋完成 55.12.21 宇治川改修工事着工 55.12.21 音竹樋門着工 56. 3.30 音竹樋門完成 56. 3.30 宇治川激特事業完成				
昭和56 昭和60		56. 4.11 松ヶ本堤防事業認定告示 56. 6.27 仁淀川に係る指定区間外の河川法第6条第1項第3号の区域指定を変更 56.10. 9 井の向樋門着工 56.12. 8 三ツ橋樋管着工 57. 2.22 日下川放水路竣工式 57. 3.15 南の谷排水機場完成	56.11.27 第3次(56~60年度)海岸事業5箇年計画閣議決定	56. 4 土佐道路2期区間筆山地区事業着手 56. 4. 4 土佐道路収用裁決不服申立請求事件提訴される 56. 4.20 神田川橋幼女転落事件提訴される 56. 6.23 土佐道路鴨部地区改築工事着工 56.11.27 第3次(56~60年度)交通安全整備事業5箇年計画閣議決定 57. 3.23 佐川バイパス所有権確認事件差戻審判決 57. 3.31 土佐道路供用開始(河ノ瀬城山間L=0.7km 2車線)		56.11.11 斉藤建設相談合追放を建設業7団体に指示 56.11.27 第6次港湾5箇年計画閣議決定(高知新港組入)
		57. 4. 6 日下川放水路(L=5.0km)河川指定,直轄管理区間となる 57. 6.17 仁淀川・物部川水防連絡会発足 57. 6.29 南の谷排水機場増設工事着工 57. 7. 6 第6次(57~61年度)				57. 5.15 吉川新漁港開港式



年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和56 ～ 昭和60		治水事業5箇年計画閣議決定 57. 7.26 早稲川放水路竣工式〈高知県〉 57. 8.10 宇治川上流河川改修工事起工式 57. 9.10 供託金還付請求権確認事件提訴される 57.10. 2 物部川環境整備事業着工 57.10.19 山田堰撤去式 58. 3.24 山田堰撤去完了 58. 3.26 神母樋門着工		57.12.24 土佐道路開通式(能茶山～荒倉L=2.9km 暫定2車線)	57.10. 5 国道194号愛媛県側土砂大崩落で通行止	
	59. 3.30 事務所庁舎4階増築	58. 6.27 南の谷排水機場増設工事完成 58. 7. 9 仁ノ堤防工事事業認定告示 58. 9.13 雨量レーダ試験運用を開始〈四国地建〉 58. 9.16 物部川濁水調整協議会発足 58.10.14 宇治川流域治水対策連絡会発足 59. 3.29 仁淀川河口転落死亡事件提訴される		58. 5.27 第9次(58～62年度)道路整備5箇年計画閣議決定 58.12.22 土佐道路第2期区間(高知市筆山町～河ノ瀬町L=0.8km)道路区域変更 59. 1. 6 荒倉鉱業権補償事件控訴される 59. 1. 9 吾川村所有権移転登記抹消請求事件控訴される		58.12. 1 高知空港ジェット化 59. 1.19 高知新港のボーリング等調査のための現地立ち入りを高知市漁協が認める
		59. 5.14 山田堰記念公園落成式〈高知県〉	60. 3.15 十市地先に緩傾斜堤を設置	59. 9.14 土佐道路沖田地区4車線改築工事着工 59.12.19 吾川村所有権移転登記抹消事件控訴棄却 59.12.24 荒倉鉱業権補償事件控訴棄却		59.11.30 大豊インターチェンジ着工〈道路公団〉
	60. 4. 8 庶務課を、総務課に名称変更	60. 5.28 仁淀川・物部川水防演習(仁淀川伊野町大内) 60. 6.14 宇治川上流河道付替通水式				60. 4. 5 南国インターチェンジ着工〈道路公団〉 60. 6.25 アクアマリン計画地域指定決定〈高知県〉

年度	高知工事事務所関係					国・高知県等
	一般	河川	海岸	道路	災害	
昭和56 ～ 昭和60		60. 8.26 波介川導流事業で地権者に初の説明会 61. 3.31 宇治川上流河道付替工事概成		61. 3.20 土佐道路沖田地区(L=1.0km)4車線供用		60.12.18 四国21世紀懇談会発足〈四国地建〉
昭和61 ～ 昭和62	61. 8. 1 波介川河口導流事業調査詰所を設置 61.11.12 事務所創立40周年記念式典を挙行		61. 9.26 十市地区漁業補償契約締結	62. 2.10 土佐道路鴨部地区(L=0.8km)4車線供用		
		62. 7.23 神母樋門竣工式				